

1

次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- a. 京都商店から売掛金 ¥560,000 を同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。ただし、当座借越勘定の残高が ¥240,000 ある。
- b. 和歌山商店に商品 ¥700,000 を売り渡し、代金は掛けとした。なお、発送費 ¥30,000 は現金で支払った。
- c. 島根商店に商品を注文し、内金として ¥90,000 を小切手を振り出して支払った。
- d. 売買目的で保有している滋賀商事株式会社の株式20株（1株の帳簿価額 ¥65,000）を1株につき ¥70,000 で売却し、代金は現金で受け取った。
- e. 本月分の給料 ¥600,000 の支払いにあたり、所得税額 ¥48,000 を差し引いて、従業員の手取額を現金で支払った。
- f. 現金の実際有高が帳簿残高より ¥4,000 多かったので、帳簿残高を修正してその原因を調査していたところ、本日、受取利息 ¥4,000 の記帳もれであることがわかった。

2

岡山商店の下記の取引について、

- (1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の買掛金勘定に転記しなさい。
 - (2) 仕入帳・買掛金元帳に記入して、締め切りなさい。
- ただし、
- i 商品に関する勘定は3分法によること。
 - ii 仕訳帳の小書きは省略する。
 - iii 元丁欄には、買掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取 引

1月 8日 広島商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A 品	500個	@¥600	¥300,000
B 品	300〃	〃〃700	¥210,000

9日 広島商店から仕入れた上記商品の一部に品質不良のものがあつたので、次のとおり返品した。なお、この代金は買掛金から差し引くことにした。

B 品	20個	@¥700	¥14,000
-----	-----	-------	---------

15日 山口商店に対する買掛金の一部 ¥100,000 を現金で支払った。

22日 鳥取商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥390,000 は同店振り出しの小切手#8で受け取り、残額は掛けとした。

A 品	400個	@¥800	¥320,000
B 品	200〃	〃〃900	¥180,000

28日 山口商店から次の商品を仕入れ、代金の一部については、下記の約束手形#6を振り出して支払い、残額は掛けとした。

C 品	800個	@¥450	¥360,000
-----	------	-------	----------

No. 6 約束手形		岡山 3301 0149-033
山口県防府市中央町3-1 山口商店 山口 太郎 殿		
収入 印紙 200円 岡山	金額 ¥200,000	支払期日 平成〇年3月28日 支払地 岡山県岡山市 支払場所 株式会社 全商銀行岡山支店
上記金額をあなたまたはあなたの指図人へこの約束手形と引き替えにお支払いいたします		
平成〇年1月28日		
振出地 岡山県岡山市中区東山3-1-6 住所 岡山商店 振出人		
岡山 一郎 岡山		

3

兵庫商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空白のままにしておくこと。

取引

1/月/8日 明石商店から事務用のカラーコピー機 ¥640,000 を買い入れ、代金は月末に支払うことにした。

(伝票番号 No. 12)

2/日 神戸郵便局で収入印紙 ¥8,000 を買い入れ、代金は現金で支払った。(伝票番号 No. 15)

4

次の各問いに答えなさい。

(1) 大阪商店の下記の勘定記録と受取手形記入帳から、

a. 1/月/8日に回収した売掛金は、次のうちどちらの商店に対するものか、番号を記入しなさい。

1. 西宮商店 2. 吹田商店

b. 1/月/9日に約束手形#3を割り引いたさいの、手形売却損勘定に記入された金額を求めなさい。ただし、手取金はすべて当座預金に預け入れている。

当座預金			受取手形		
1/1	前期繰越	185,000	1/20	支払手形	490,000
19	受取手形	517,000	1/8	売掛金	260,000
			15	売上	()
					1/19 諸口 ()

受取手形記入帳

平成 ○年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	支払人	振出人また は裏書人	振出日	満期日	支払場所	てん末					
										月	日	摘要			
1	8	売掛金	260,000	為手	1	西宮商店	吹田商店	1	8	3	8	全商銀行西宮支店			
	15	売上	520,000	約手	3	梅田商店	梅田商店	1	15	3	15	全商銀行梅田支店	1	19	割引

(2) 次の文の のなかに、適当な金額を記入しなさい。

奈良商店の期首の資産総額は ¥3,620,000 負債総額は ¥2,030,000 であり、期末の資産総額は ¥3,910,000 であった。なお、この期間中の収益総額は ¥7,900,000 当期純利益は ¥360,000 であるとき、費用総額は で、期末の負債総額は である。

(3) 次の各文の のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

a. 企業では、残高試算表から損益計算書と貸借対照表を作成する手続きを一覧表にした を作成することがある。これにより/会計期間の経営成績や期末の財政状態の概要を知ることができる。

b. 個人企業の決算において、損益勘定の貸方に残高が生じた場合には純利益を意味し、 勘定の貸方に振り替える。

1. 現金 2. 仕訳帳 3. 精算表 4. 棚卸表 5. 資本金

5

近畿商店（個人企業 決算年/回 12月31日）の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

(1) 決算整理仕訳を示しなさい。

(2) 貸付金勘定・仕入勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。ただし、日付・相手科目・金額を記入すること。

(3) 貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 528,000	当座預金	¥1,340,000	売掛金	¥2,800,000
貸倒引当金	14,000	繰越商品	740,000	貸付金	600,000
備品	450,000	支払手形	800,000	買掛金	2,128,000
前受金	120,000	資本金	3,000,000	引出金	130,000
売上	8,560,000	受取利息	18,000	仕入	5,610,000
給料	1,650,000	支払家賃	480,000	水道光熱費	170,000
消耗品費	96,000	雑費	46,000		

決算整理事項

a. 期末商品棚卸高 ¥790,000

b. 貸倒引当金 売掛金残高の2%とする。ただし、差額を計上する方法によること。

c. 備品減価償却高 ¥150,000 (直接法によって記帳している。)

d. 引出金勘定の ¥130,000 は整理する。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2 (1)

仕訳帳 1

平成 〇年	摘要	元 字	借方	貸方
/ /	前期繰越高	✓	3,850,000	3,850,000

総勘定元帳

買掛金 14

平成 〇年	摘要	元 字	借方	平成 〇年	摘要	元 字	貸方
/ /	前期繰越	✓		/ /	前期繰越	✓	250,000

(2) (注意) 仕入帳・買掛金元帳は締め切ること。

仕入帳 1

平成 〇年	摘要	内訳	金額

買掛金元帳

広島商店 1

平成 〇年	摘要	借方	貸方	借 また 貸	残高
/ /	前月繰越		70,000	貸	70,000

山口商店 2

平成 〇年	摘要	借方	貸方	借 また 貸	残高
/ /	前月繰越		180,000	貸	180,000

試験場校	受験番号

3級の1得点

3

入金伝票		No. _____	
平成○年 月 日			
科目	入金先	殿	金額
摘要			
合計			

出金伝票		No. _____	
平成○年 月 日			
科目	支払先	殿	金額
摘要			
合計			

振替伝票				No. _____			
平成○年 月 日							
勘定科目	借方			勘定科目	貸方		
合計				合計			
摘要							

4

(1) <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 50%; text-align: center;">a</td><td style="width: 50%; text-align: center;">b</td></tr><tr><td style="text-align: center;">¥</td><td></td></tr></table>	a	b	¥		(2) <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 50%; text-align: center;">ア</td><td style="width: 50%; text-align: center;">イ</td></tr><tr><td style="text-align: center;">¥</td><td style="text-align: center;">¥</td></tr></table>	ア	イ	¥	¥	(3) <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 50%; text-align: center;">ア</td><td style="width: 50%; text-align: center;">イ</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	ア	イ		
a	b													
¥														
ア	イ													
¥	¥													
ア	イ													

5

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		

- (2) (注意) i 貸付金勘定と仕入勘定の記録は、合計額で示してある。
 ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

貸付金		仕入
900,000	6	5,670,000
300,000		60,000

仕入		貸付金
5,670,000	15	900,000
60,000		300,000

(3)

貸借対照表

近畿商店

平成○年/2月3/日

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現金		支払手形	
当座預金		買掛金	
売掛金 ()		()	
貸倒引当金 ()		資本金	
()		()	
貸付金			
備品			

試験場校	受験番号

3級の2得点

総得点

1

借 方		貸 方	
a	当座借越 当座預金	240,000 320,000	売掛金 560,000
b	売掛金 発送費	700,000 30,000	売上 現金
c	前払金	90,000	当座預金
d	現金	1,400,000	有価証券(または売買目的有価証券) 有価証券売却益
e	給料	600,000	所得税預り金 現金
f	現金過不足	4,000	受取利息

2

(1)

仕 訳 帳 1

平成 〇年	摘 要	元 号	借 方	貸 方
/ /	前期繰越高	✓	3,850,000	3,850,000
8	(仕 入)		510,000	
	(買掛金)	14		510,000
9	(買掛金)	14	14,000	
	(仕 入)			14,000
15	(買掛金)	14	100,000	
	(現金)			100,000
22	諸 口 (売 上)			500,000
	(現金)		390,000	
	(売掛金)		110,000	
28	(仕 入) 諸 口		360,000	
	(支払手形)			200,000
	(買掛金)	14		160,000

総 勘 定 元 帳

買 掛 金 14

平成 〇年	摘 要	元 号	借 方	平成 〇年	摘 要	元 号	貸 方
1 9	仕 入	1	14,000	/ /	前期繰越	✓	250,000
15	現金	〃	100,000	8	仕 入	1	510,000
				28	仕 入	〃	160,000

(2) (注意) 仕入帳・買掛金元帳は締め切ること。

仕 入 帳 1

平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額
1 8	広島商店 掛け		
	A 品 500個 @¥600	300,000	
	B 品 300〃 〃〃700	210,000	510,000
9	広島商店 掛け戻し		
	B 品 20個 @¥700		14,000
28	山口商店 約手・掛け		
	C 品 800個 @¥450		360,000
31		総仕入高	870,000
〃		仕入戻し高	14,000
		純仕入高	856,000

買 掛 金 元 帳

広 島 商 店 1

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 また 貸 は	残 高
/ /	前月繰越		70,000	貸	70,000
8	仕 入 れ		510,000	〃	580,000
9	仕入戻し	14,000		〃	566,000
31	次月繰越	566,000			
		580,000	580,000		

山 口 商 店 2

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 また 貸 は	残 高
/ /	前月繰越		180,000	貸	180,000
15	支 払 い	100,000		〃	80,000
28	仕 入 れ		160,000	〃	240,000
31	次月繰越	240,000			
		340,000	340,000		

3

入金伝票		No. _____	
平成○年 月 日			
科目	入金先	殿	
摘要		金額	
合計			

出金伝票		No. 15	
平成○年 1月18日			
科目	租税公課 (または印紙税)	支払先	神戸郵便局 殿
摘要		金額	
収入印紙買い入れ			8 0 0 0
合計			8 0 0 0

振替伝票				No. 12			
平成○年 1月18日							
勘定科目	借方	勘定科目	貸方				
備品	6 4 0 0 0 0	未払金	6 4 0 0 0 0				
合計	6 4 0 0 0 0	合計	6 4 0 0 0 0				
摘要		明石商店から事務用カラーコピー機買い入れ 月末払い					

4

(1)	a	b	(2)	ア	イ	(3)	ア	イ
	2	¥ 3,000		¥ 7,540,000	¥ 1,960,000		3	5

5

	借方	貸方
a	仕入 740,000	繰越商品 740,000
	繰越商品 790,000	仕入 790,000
b	貸倒償却(または貸倒引当金繰入) 42,000	貸倒引当金 42,000
c	減価償却費 150,000	備品 150,000
d	資本金 130,000	引出金 130,000

- (2) (注意) i 貸付金勘定と仕入勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

貸付金		6
900,000	300,000	
	12/31 次期繰越	600,000
900,000		900,000

仕入		15
5,670,000	60,000	
12/31 繰越商品	740,000	12/31 繰越商品 790,000
		〃 損益 5,560,000
6,410,000		6,410,000

(3)

貸借対照表

近畿商店

平成○年/2月3/日

資産	金額	負債および純資産	金額
現金	528,000	支払手形	800,000
当座預金	1,340,000	買掛金	2,128,000
売掛金 (2,800,000)		(前受金)	120,000
貸倒引当金 (56,000)	2,744,000	資本金	2,870,000
(商品)	790,000	(当期純利益)	384,000
貸付金	600,000		
備品	300,000		
	6,302,000		6,302,000